

第二十一回 明治大学中央図書館企画展示

# 図書館の文化史



会場：明治大学中央図書館ギャラリー

会期：2007年7月5日(木)～9月13日(木)

# 図書の文化史

## ～粘土板からインキュナビュラまで～

明治大学図書館は、文字や書写材料の歴史を伝える貴重な資料類を、長期にわたって少しずつ集めてきました。今日では数も徐々に増え、コレクションとして充実してきています。司書課程では文字の発生から書写材料そして書物および図書館の歴史を学びます。そのための副教材も図書館のコレクションに加えられ、2002年度から授業の一環として、ギャラリーに展示しています。受講生のみならず、多くの学生、教職員の方々、卒業生そして明治大学を訪れる多くの方々にもご覧いただく機会ともなっています。

2006年1月4日付朝日新聞によると、昨年2月に日本の発掘調査隊がシリアで発見した約3200年前の楔形文字が刻まれている粘土板文書の解読が進んでいるとのこと。この文書により、「アッシリアの自立した地方の属国マリの内情が判明しつつある」と伝えています。

また、沼本宏俊氏(国士舘大学教授)によるシリア北東部のテル・タバンの発掘調査において(2006年8月から12月実施)、日本人では初めて、粘土板の封筒を発見したとのこと。同年12月7日付、朝日新聞によると、テルカという都市の王からテル・タバンの領主へ、領土や家屋を下賜する契約が古バビロニア語で刻まれていたとのこと、法典で有名なハムラビ王の時代の直後の文書とみられています。興味深いのは、この封筒は、領主の宮殿の壊れた焼き窯からみつかったそうで、長期保存のため、粘土を焼きしめる途中で、何らかの理由で中断したらしい様子です。何があったのか、契約は結局、かわされなかったのか、どうだったのでしょうか。

様々な調査により、このような記録が新たに発見され、断片的にしる古代の出来事を知る手立てとなり、最初は点であったものも、いつしか繋がり、いずれは、線になることも可能でしょう。

人類の遺産ともいべきこのような記録は、地震、噴火、洪水などの天災により失われたものも少なくありませんが、人の手により消滅したもののほうが、はるかに多いのではないのでしょうか。アレキサンドリアの図書館をはじめとして、戦禍により失われたもの、思想の弾圧や宗教上の理由により異端とみなされ、世に広まるにいたらなかったもの、遺されなかったものの方が、現存しているものを凌ぐことは確かでしょう。人類の知的遺産は、一方では、人が記録し、あるいは記録に残そうと努め、他方では、残された記録を人が破壊してきたという、保存と破壊のせめぎあいの道りを辿ってきました。

図書館の使命のひとつは、貴重な資料を後世のために保存すること、同時に広く多くの人々に公開し、人類の知的遺産を共有する機会を提供することでもあります。明治大学の図書館がこのふたつの使命を果たそうとしていることを、利用者のひとりとして嬉しくまた誇らしく感じています。人間の編み出した文化の「記録」とその「保存」について思いを馳せていただく一助となることを願っています。

(文学部教授 阪田 蓉子)

## A. 文字の発生と書写材料

### 1. エジプト死者の書 紀元前 300 年頃 布製 5.5×16cm 091.6/21//H

初期プトレマイオス王朝の布製『死者の書』の一部。ヒエラティック(神官文字=ヒエログリフを簡略にした古代エジプト文字)で記されている。

### 2. 貝多羅<sup>ばいたら</sup>経典 書写年不明 46×6cm 貝葉数量: 73 葉 183.81/2//H

貝多羅に経典を書写したもの。貝多羅とは梵語 pattra の音訳語で、「樹木の葉」の意味だが、特に文字を記すのに用いられる多羅樹の葉のこと。古来インドなど南アジアで紙が流通する以前より、ヒンドゥー教や仏教の聖典書写に用いられた。貝多羅を乾燥させて、葉面に針(鉄筆)で経文を彫り、その跡に「すす」を流すと黒褐色の文字が残る。幅 5-6cm、長さ 30-60cm に裁断、書写した経典を夾板(書物を保護するため、2 枚の板で書物を挟み紐で結ぶもの)で押さえ、左右の小穴に紐を通してしばり、書冊にして保存した。

### 3. シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板の伝達文

メソポタミア ウル第三王朝時代 紀元前 2100 年頃 091.6/19//H

### 4. シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板 紀元前 2300~2200 年頃 091.6/19//H

### 5. シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板 紀元前 17 世紀頃 091.6/19//H

### 6. 新シュメールの楔形文字が刻まれた粘土円錐 紀元前 2120 年頃 091.6/19//H

新シュメールの楔形文字の例。太い円錐の粘土に刻まれた奉獻文で、Gudea による Lagash 統治時代の Ningirsu 神殿建設を祝うものである。

### 7. 古バビロニア語の楔形文字入り円筒印章

南メソポタミア 古バビロニア時代 紀元前 1900~1600 年頃 091.6/19//H

向かい合って立つ二人の人物が描かれており、左は角付きの装飾冠を被り、襷入りの長い衣を身につけた神で、片手を腰に当てており、右は無帽の崇拝者で、長い襷入りの衣を着て片手を挙げて神を崇拝している。かつての所有主を記す2行の碑文がみられる。

KAL-dwe-er Aqar-Wer dumu bi-la-du-ú Biladû の息子

### 8. エジプト象形文字の例 エジプト 新王国時代 紀元前 1200 年~紀元 2 世紀頃 091.6/19//H

パピルスに書かれた『エジプト死者の書』断片で、来世のための呪文が書かれている。

## 9. エジプト神官文字の例

エジプト メンフィスまたはファユーム 紀元前4世紀～紀元2世紀頃 091.6/19//H

亜麻布に書かれた神官文字の例。神官文字は、象形文字を簡略化したもので、神官らが記録を取るのに用いた。この布片は、『エジプト死者の書』からの文言を含んでいる。



## 10. エジプト民衆文字の例 エジプト 紀元前7世紀～紀元2世紀頃 091.6/19//H

神官文字をさらに簡略化した民衆文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。

## 11. コプト文字の例 エジプト 4～7世紀頃 091.6/19//H

コプト文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。コプト語は古代エジプト語から派生した言語だが、現在ではほとんど使われていない。

## 12. ギリシャ語の例 エジプト 2～6世紀頃 091.6/19//H

パピルスに筆記体のギリシャ文字で書かれた商業文書の断片。

## 13. アラム語の例 シリア 1～3世紀 091.6/19//H

イエスの時代に聖地エルサレムの民衆の言葉であったアラム語を用いて鉛に記された呪術文書。

## 14. ササン朝の文字の例 古代ペルシア 224～650年 091.6/19//H

名前が入れられたササン朝ペルシアの印章。

## 15. ブラーフミー文字の例 パーミヤン 2～5世紀 091.6/19//H

後の多くのインド文字の基礎となったブラーフミー文字でシュロの葉に書かれた文書の断片。

## 16. カロリング朝後期の文字の例 スペイン 10世紀 091.6/19//H

## 17. シトー修道会の筆写体 フランス ブルゴーニュ シトー修道院 1150年頃 091.6/19//H

ヴェラムにシトー修道会のロマネスク体文字で書かれたラテン語文書の一部。1098年のシトー修道会設立からわずか半世紀後に書かれた、リヨンのフロルスによる『シトー修道会の本山であるブルゴーニュのシトー修道会におけるパウロの書簡の解説』という中世教父写本の一部。

※ヴェラム 子牛・子羊・子山羊の皮を薄く剥いでなめし、筆記用としたもの

**18. イタリアの写字生による小型聖書の一葉 イタリア ポローニャ 1250年 091.6/19//H**

ラテン語でヴェラムに書かれた小型聖書の一葉。民数記 31-33 章が、ゴシックの小文字体で褐色インクにより 55 行にわたって書かれている。赤と青による頭文字や欄外装飾、赤字による章題が入れられている。

**19. パリの写字生による聖書の一葉 パリ 1250年頃 091.6/19//H**

二ツ折り判パリ聖書の一葉。エゼキエル書 31-32 章が 50 行にわたり黒インクの細いゴシック体で書かれている。章題および行末装飾には赤と青のインクが用いられ、ペン装飾が施されている。

**20. イギリスの写字生による詩篇集の一葉 イギリス 14世紀 091.6/19//H**

ラテン語でヴェラムに書かれた詩篇集の一葉。黒インクによる角ばったゴシック体の文字が 17 行にわたって書かれている。青インクと磨かれた金箔による 1 行題の頭文字多数。磨かれた金箔地に青と白による 2 行大の頭文字「A」が 1 点、詩篇冒頭に入れられている。

**21. フランスの写字生による時<sup>じょうしよ</sup>禱書の一葉 フランス 15世紀中葉 091.6/19//H**

ラテン語でヴェラムに書かれた時禱書の一葉。文章は 15 行で褐色インクにより、ゴシック体で書かれている。1-2 行大の頭文字は、赤または青のテンペラ地に磨かれた金箔を用い、アカンサス葉と花模様の縁飾りが施されている。

**22. 14世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1306年 091.6/19//H**

ラテン語で書かれた Ricardus Duraci, Mansus de Calasillis の土地譲渡に関する公証人証書。

**23. 16世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1578年 091.6/19//H**

ラテン語法廷文書。Stopesley, Linton, Bedfordshire の Thomas Pygott から John Francklyn 他に対する譲渡証書。証人および Pygott の署名入り。エリザベス一世統治 20 年目 2 月 14 日の日付入り。

## B. 中世彩色写本 MS(Manuscript)

### 24. 中世彩色写本零葉「交唱聖歌集」14世紀中頃 イタリア 091.6/25//H

大型写本からの断片で、本来は表頁の右隅にあたる部分。角笛を肩に下げ、弓をまさに射んとする人面獣身像が描かれている。部分的に見える譜面は朱の四線。ここに見られる装飾は14世紀ピサの聖歌集写本の典型的なもので、おそらくピサで制作されたと考えられる。ヴェラム。22×14cm。



### 25. 中世彩色写本零葉「旧約聖書 詩篇集」1250-1300年頃 ベルギー 091.6/29//H

『鐘を演奏するダビデ王』という標題がついた詩篇集の零葉。ダビデ王を描いた大型の頭文字「E」と、幻想的な動物を描いた行間装飾が入れられている。ダビデの足下には弦楽器が描かれている。ダビデはイスラエルを統一し、最盛期を築いた王である。芸術的才能にも恵まれ、旧約聖書には彼の作といわれる詩篇も記されている。ヴェラム。18×14cm。

### 26. 中世彩色写本零葉「旧約聖書 レビ記」14世紀頃 フランス 091.6/23//H

ラテン語。ヴェラム。24×17cm。

### 27. 中世彩色写本零葉「時禱書」1410年頃 パリ 091.6/24//H

ラテン語。ヴェラム。21×16cm。

### 28. ケルズの書【ファクシミリ版】 099.3/432//H

8世紀末ないし9世紀初頭に制作された聖福音集。制作地は諸説あったが、現在ではスコットランドのアイオワ島とアイルランドのケルズの修道院の連携で完成されたとの説が有力である。華麗な装飾や挿絵に彩られたページが、ウルガタ版聖書(384年に聖ヒエロニムスによって完成された標準ラテン語訳聖書)の本文ページに挿入されている。ケルト・ゲルマン起源の唐草文様を惜しみなく用いて、2つのページを除く全てのページが彩色されている。装飾の緻密さ、文様表現の伝統、色彩の豊かさ、書体の美しさなどから、「装飾写本芸術」の最高峰と称えられている。ケルズの修道院に伝来し、17世紀以来今日までアイルランド共和国のダブリン大学トリニティー・カレッジ図書館に保存されてきた。

※ ファクシミリ版 facsimile edition

原資料の本文・図像などの形・色を写真製版技術によって正確に再現するだけでなく、紙質・装丁などの造本面についてもできる限り忠実に再生したもの。ファクシミリ版は、他の複製に比べ手間・費用がかかるため、特に貴重な資料である場合のみ刊行される。

**29. リンディスファーン福音書 The Lindisfarne Gospels 【ファクシミリ版】 099.3/342//H**

イングランド北東部のリンディスファーン島の修道院で制作された福音書。この修道院はスコットランドのアイオナ修道院からやって来たアイルランド人修道士によって635年に創設された。本書には970年前後にチェスター・ル・ストリート（Aldred of Chester-le-Street）によって書き加えられた奥書があり、それによると、この書物は神と聖カスバート（635-687）に捧げられたもので、写字と装飾をイードフリス（?-721、後にリンディスファーン修道院司教となった修道僧）が、装幀にはエセルワルドとビルフリースが当たり、オールドレド自身が行間に英語訳を加えた、とされている。聖カスバートは、リンディスファーン修道院の第6代司教で、ローマ教会との対立で権威を失墜した修道院の危機を救った聖人として、多くの人々に崇拜されていた。制作年代については、689年頃という定説に対し、710年以降であるとの新説が本書の別巻解説で発表されている。

ケルト美術とアングロサクソン美術さらにローマ美術の稀有な融合（ケルト系螺旋紋・ゲルマン系動物組紐紋・地中海系福音書記者像などからなるモチーフ）を示す美術的価値ともに、本文行間に10世紀の古英語訳を有しているという点でも評価されている。本書と『ダロウの書』（680年頃）『ケルズの書』（800年頃・ファクシミリ版を当館所蔵・展示番号28）をあわせた3つの写本はイギリスの三大彩飾写本として名高い。「カーペット頁」「装飾頭文字の頁」の精緻な装飾文様が特に目を引く。残念ながら当館所蔵のファクシミリ版はエセルワルドとビルフリースによる豪華な装幀は再現されていない。原本は大英図書館蔵。

**30. 聖母マリア讃詞集 【ファクシミリ版】 099.3/121//H**

ヴァチカン図書館が誇る蔵書のひとつ。小アジア、コッキノバフォスの修道士ヤコボスが、ヤコブ原福音書など主に聖書外典に基づき、聖母マリアの前半生を、マリアの両親ヨアキムとアンナの物語から始まり、アンナの受胎、マリアの誕生、神殿行、婚約、受胎告知、エリザベト訪問、呪いの水試しに至る6編に収められているギリシア語による讃詞集である。また、物語の展開に応じて配された見事な挿絵が、本写本の価値を高め、中期ビザンティン写本芸術の最高傑作と目されている。制作は12世紀前半と推定されている。

**31. ベリー公のいともしき聖母時祷書 【ファクシミリ版】 099.3/135//H**

中世末期の彩飾写本のなかでひときわ美しく規模の大きなこの時祷書は、愛書家ベリー公が企画した彩飾写本のなかで最も美しいといわれているもので、ヤン・ファン・エイクをはじめ当時の主要画家がこぞって参画した。時祷書とは、ローマ・カトリック教会にお

いて、平信徒が個人的に使用するためラテン語または当該国語で書かれた「聖母への祈りを中心とする祈祷書」であり、14・5 世紀のフランス、フランドルで数多く制作された。この時祈祷書は数奇な運命をたどって今日に伝えられ、パリとトリノに分割保管されてきた。



### 32. クロイの時祈祷書 【ファクシミリ版】 099.3/410//H

ブルゴーニュ公国の貴族の中で最も重要で由緒あるクロイ家の一員が、この時祈祷書の中に一種の記念帳風の書き込みを残していることから、『クロイの時祈祷書』と呼ばれる。フランドル写本芸術の代表的画家シモン・ベニングらによって彩飾され、装丁を含め完全な状態で今日に伝えられた絢爛たる時祈祷書を忠実に再現。月暦図、全頁大彩飾画に加えて、欄外には多数の花、鳥、昆虫、宝飾品、さらにヒエロニムス・ボッスの世界を彷彿とさせる怪物たちが描き出され、興味深いものとなっている。

### 33. ボルソ・デステの聖書 【エステンセ図書館蔵本ファクシミリ版】 099.3/412//H

ルネサンス宮廷文化が開いたフェッラーラの君主、エステ家のボルソのために制作された 2 巻本ラテン語聖書 (Bibbia lateina)。モデナの国立エステンセ図書館に所蔵されており、一般に『ボルソ・デステの聖書』の名で親しまれている。タッデーオ・クリヴェッリら第一級の画家の手による本写本は、イタリア 15 世紀彩飾写本のなかにあつて、挿絵および彩飾の質の点でも、量の点でも最も傑出した作品として、西欧彩飾写本芸術の全歴史において最も絢爛豪華な本の一つとの評価を得ている。

### 34. オランダ語時祈祷書(写本) 1480 年頃 ズヴォーレ制作 091.3/972//H

[Horae in Dutch (Manuscript)] [S. l.] : [Zwolle, Domus Parva], [1480?]

1480 年頃、オランダの都市ズヴォーレのパルヴァ聖堂の写本工房で制作されたとされる、オランダ語でヴェラムに書かれた時祈祷書。15 世紀末はオランダにおける写本制作の黄金時代といわれており、またこの時代にこの地で制作された写本には、この地方の聖人サリス (Sarijs) の名が暦に記されていることから『サリス写本』(De Sarijs-handschriften) とも呼ばれている。手彩色の美しいボーダー装飾のある頁が数葉含まれている。

## C. ヨーロッパの印刷史

※ グーテンベルク『四十二行聖書』

マインツの金細工師ヨハン・グーテンベルクが発明した活版印刷術により、初めて印刷された聖書。1450-55年頃完成したと考えられている。大型二ツ折で上下2巻本のラテン語聖書で本文は2段組。冒頭の9ページは40行、10ページ目は41行、11ページ以降は全て42行であるため、『四十二行聖書』と呼ばれている。世界で現存する原本は48部。そのうち完全本はわずか21部である。印刷後は未製本のシートを各地に送って、顧客の好みに合わせて大文字や余白に装飾が施され製本された。



グーテンベルク

### 35. グーテンベルク『四十二行聖書』零葉【原本】1455年頃 マインツ 091.6/33//H

本零葉は、稀覯書のコレクターで出版業者でもあったエドワード・ニュートンが不完全本を1葉ずつに分け、1921年に解説を付して製本し頒布したものの1点である。当館所蔵のものは『旧訳聖書 第3エズラ記』の第8章の部分である。葡萄のウォーターマーク(透かし)入り。

### 36. グーテンベルク『四十二行聖書』零葉【ファクシミリ版】 099.3/263//H

本零葉は、アメリカの Huntington Library 所蔵本より制作されたファクシミリ版で、Canticum canticorum Salomonis(雅歌)、Prophetia Baruch(バルク書)、Actus apostolorum(使徒言行録)の3葉。

### 37. グーテンベルク聖書, マザラン版【ファクシミリ版】 099.3/433//H

グーテンベルク聖書は『四十二行聖書』と呼ばれるほかに、1763年、書誌学者ドゥ・ボルがフランスの枢機卿マザラン(Mazarin, 1602-1661)の文庫から埃にまみれた『グーテンベルク聖書』紙刷り本2巻(完本)を発見し再び脚光を浴びることとなり、これにより、別名『マザラン聖書』とも呼ばれている。本書はこの由来となったマザラン図書館の原本から、1984年パリの・dition les incunables が制作したファクシミリ版である。原本と同じ印刷法を用い、同じ製紙法で再現した用紙に印刷されている。装幀はモロッコ皮を使用している。

### 38. グラティアヌス『教令集』零葉(ヴェラム刷)1472年 マインツ ペーター・シェーファー刊 091.6/31//H

Gratian (12th cent.) *Decretum* 1 leaf printed on vellum Mainz : Peter Schoeffer, 1472

1140年にイタリアの修道士グラティアヌスが編纂した教会法法令集。1472年にペーター・シェーファーによって印行された内のヴェラム刷りの1葉。頁の中央が本文で、上下左右を囲んでいるのがその注釈である。本零葉は1971年に、Lehmann-Hauptによる解説「Two essays on the Decretum of Gratian」を添付して193葉が販売された。当館所蔵はno. 171。

39. テレンティウス『喜劇集』 1493 年 リヨン ヨハン・トレクセル刊 091.3/971//H

Terence (185–159 B.C.) *Comoediae* Lyons : Johann Trechsel, 29 Aug., 1493

テレンティウスは、紀元前 2 世紀にローマで活躍した喜劇作家。中世ヨーロッパ、近世初期においても彼の作品は愛読され、またラテン語の教材としても使われた。本書はテレンティウスの最初の挿画版とされている。ルネサンス期の実際の舞台を活写した合計 160 もの木版挿画を含んでおり、巻頭には劇場を描いた全頁大の木版画がある。同時期のドイツの木版画とは微妙に趣きの異なった水準の高い木版画である。

40. ピエール・デ・パルド『説教集』 1496 年 ニュルンベルク アントン・コーベルガー刊

091.3/960//H

Petrus, de Palude, Patriarch of Jerusalem (d. 1342) *Sermones Thesauri noui de Sanctis Nuremberge* [i.e. Nuremberg] : P[er] Anthoniu[m] Koburger [i.e. Koberger] , 1496

ピエール・デ・パルドは 14 世紀の神学者にして大主教。アントン・コーベルガーはニュルンベルクで当時のヨーロッパでは最大の印刷工房を営み、聖書や神学書、法律書などを中心に生涯に約 240 種もの書物を印刷刊行した。またアルブレヒト・デューラーの名付け親でもある。本書はコーベルガーの後期の印刷。最初の説教のページに金・赤・緑・白色を使った装飾文字がある。木製の表紙は豚皮で覆われている。

41. コペルニクス『天球の回転について』 1543 年 ニュルンベルク ヨハネス・ペトレイウム刊  
【ファクシミリ版】 099.3/452//H

Copernicus, Nicolaus (1473–1543) *Nicolai Copernici Torinensis de revolutionibus orbium cælestium, libri VI* Pelplin, Poland : Wydawnictwo Bernardinum , 2007

Reprint of: Norimbergæ : Apud Ioh. Petreium, 1543

コペルニクスは、1473 年にトルン(現在のポーランドの一部)に生まれた。クラクフ大学で天文学を学び、イタリアのボローニャ大学でローマ法について学んだ。この『天球の回転について』(1543 年)において、事実上の“地動説”を提唱し、また、それを元に惑星の軌道計算を行った。本ファクシミリ版の原本はポーランド所在の 11 冊のうちの 1 冊で、現在ニコラウス・コペルニクス大学(トルン)に所蔵されている。ヒギヌスの『天文詩』(Poetucib Astronomicon)およびプトレマイオスの『アルmagest』(Amagest)からの 2 章が合綴されている。

42. ボダン『魔女論』 1580 年 パリ 091.3/937//H

Bodin, Jean (1530–1596) *De la demonomanie des sorciers ...*

Paris : Chez Jacques Du Puy, 1580

16 世紀フランスの法学者ジャン・ボダンは『国家論』(Les six livres de la Republique, 1576)を著し、「主権」概念の創始者として知られている。その一方で、彼は 16 世紀末の“魔女裁判”に甚大な影響を及ぼした『魔女論』の著者としても有名である。ボダンは本書で、魔女を

理論的に定義し、その実在を論じ、そして断罪している。“魔女糾弾の書”でもある本書は1580年の刊行後版を重ね、ラテン語、イタリア語、ドイツ語に訳され広くヨーロッパに流布した。

**43. ヴェサリウス『人体の構造についての七つの書』1543年 バーゼル 【ファクシミリ版】  
099/2751//S**

**Vesalius, Andreas (1514–1564) *De humani corporis fabrica : libri septem***

**Basileae: Ex officina Ioannis Oporini, 1543**

ヴェサリウスは1533年18歳でパリ大学医学部に入学し医学を学ぶが、当時ヨーロッパ医学の主流であったガレノス(Claudius, Galenus. A.D.125-199)によるギリシア医学に失望し、ルーヴァンに戻って勉学を続ける。この時に検死解剖や人骨標本の組み立てなどを積極的に行い、やがてイタリアのパドヴァ大学に入学して1537年、23歳にしてパドヴァ大学医学部の外科及び解剖学の教授に抜擢される。以後、実証によってガレノスの誤りを正し、近代的系統解剖学の体系を樹立した。その最も著名な成果が『人体の構造についての七つの書』である。この書は、実証に基づいた人体のあらゆる箇所の完全な解剖学的・生理学的研究であり、骨、筋肉、脈管、神経、腹部内臓、胸部臓器、脳に関する7巻からなる。解剖学の歴史はヴェサリウス以前、以後に分けられ、ヴェサリウスは近代解剖学の基礎を築いた人物として知られるだけでなく、同書の出版は同じ年に出版されたコペルニクスの『天球の回転について』と並んで、近代科学の成立を決定づける記念碑的著作に位置づけられている。その木版解剖図の素晴らしさもまた特筆されるべきものである。

**44. セルデン『名譽の称号』第2版 1631年 ロンドン ウイリアム・スタンビー刊  
091.3/19//S**

**Selden, John (1584–1654) *Titles of honor* London : Printed by William Stansby for**

**Richard Whitakers, 1631**

ジョン・セルデン(1584-1654)はイギリスの法律家、古代法研究の歴史家、文筆家。本書はセルデンの主著のひとつで、17世紀以前の英国貴族社会の規範・典礼・称号・系譜・慣習などをまとめたもの。第1部(1~11章)には皇帝や王、その他支配者の称号や爵位について書かれ、第2部(1~65章)では、王位継承者、女性の称号などの下位の称号や席次の慣わしなどが述べられている。初版は1614年。本書は第2版(1631年)だが、3版(1672年)まで版を重ねた。

45. マッツペルガー 『絵解き聖書』 1685年 アウクスブルク【ファクシミリ版】 193/104//D

Mattsperger, Melchior. *Geistliche Herzens-Einbildungen inn zweihundert und funfzig biblischen Figur-Spruchen angedeutet. Allen andachtige[n] Herze[n], u. der Tugend-liebenden Jugend, zu einer gottseligen Belustigung, auch denen Einfaltigen, zu einer anmuthigen Vorstellung, unschweren Ergreifung, und nuzlichen Fassung, auss allen und ieden Buchern der H. Schrift, nach Herzen D. Martini Lutheri sel. Dolmetschung, von einem Liebhaber des gottlichen worts mit sonderbarem Freiss zusam[m]en gelesen, entworffen, und verlegt. Auch inn Kupfer gebracht, und zufinden, ...*

Augstburg: Bei Hannsz Georg Bodenehr, Kupferstecher, 1685

本書の内容は以下のたいへん長い書名に明確に表れている。

『250 の／聖書の図像と言葉で表す／心の靈的想像／信心深い心を抱く全ての者、そして徳を好む若者の／法悦な喜びのために／また彼ら純朴な若者たちに／上品な想像を促し／感動を容易にし、更に有用な理解を助けるために／マルティン・ルター博士の翻訳による／聖書の全ての、そしてどの書からも／神の言葉を好む者の手で／特別な熱意を込めて拾い集め／企画、出版された／また銅版画師ハンス・ゲオルク・ボーデナーのもとで／銅板に彫られたアウクスブルクにて 1685年』

旧約及び新約聖書から500のフレーズを選び、各々に図像を配している。教訓を含んだ句が、従来の絵入り聖書とは異なり、日常的に目にするもの、即ちハートや人の耳や目、手足、動植物、建造物、どの家庭にもある道具などのエンブレムと組み合わされている。

7年後の1692年に同じ出版社から別巻が刊行された。扉の図柄に1685年刊本との相違はあるものの、銅版画の中央には同様にハート形の空間を設け、これが『心の靈的想像 500／別巻／250の／聖書の図像と言葉で表す…』という書き出しで始まって、ほぼ同じ内容の書名で埋められている。扉と見開きになるように「タイトル・ページの解説」が置かれ、その冒頭に「聖書の図像と言葉と題した前作は…神を愛する多くの、好意ある人々を満足させた」と述べて、7年前の出版が成功したことを示唆している。

46. ホブズ 『リヴァイアサン』 1651年 ロンドン【ファクシミリ版】 330/690-27//D

Hobbes, Thomas (1588-1679) *Leviathan : or the matter, forme, and power of a common-wealth ecclesiasticall and civill*

London: printed for Andrew Croke, at the GreenDragon, 1651

市民革命期イギリスの代表的政治思想家ホブズの主著で、社会契約説を打ち出した書。初版の口絵は、「リヴァイアサン」の擬人化した姿を象徴的に描き出している。本書には「1651年」刊とされている版が三種類あり、タイトルページの飾りに「人の頭」「熊」「オーナメント」とそれぞれ違う図案が使われている。チャールズ二世時代に復刻が禁止されたため刊年を変えて出版されたという。このファクシミリ版は初刷りといわれている「head」版である。

47. ルソー 『人間不平等起原論・学問芸術論』 1755年 アムステルダム M.ミッシェル刊  
091.3/969//H

Rousseau, Jean-Jacques (1712-1778) *Discours sur l'origine et les fondemens de l'inégalité parmi les homes* Amsterdam : M. Michel , 1755

With: Discours qui a remporté le prix a l' Académie de Dijon, en l'année 1750, sur cette question proposée par la m<sup>me</sup> Académie : *Si le rétablissement des sciences & des arts a contribué à épurer les mœurs* A Genève : chez Barillot & fils, [n. d.]

ルソーの出世作である『学問芸術論』と『人間不平等起原論』とは、いずれも彼がディジョンのアカデミーに応募した懸賞論文である。『学問芸術論』は1等受賞、『人間不平等起原論』は入選を逃すが、『社会契約論』へと連なるルソーの社会思想を示す記念碑的著作となった。同時代の製本によって合綴されている。

48. ビュフォン 『博物誌』 1749-1804年 パリ 091.3/850//H

Georges-Louis Leclerc de Buffon (1707-1788) *Histoire naturelle ...*

Paris : Imprimerie Royale, 1749-1804

フランス、ブルゴーニュ地方のビュフォン伯爵ジョルジュ＝ルイ・ルクレールが、パリ王立植物園総監の要職にありながら、解剖学者レイ・ドーバンなどの助力を得て、1749年秋に最初の3巻を出版した。その後も長い年月を経て出版され、ビュフォン没後にも8巻が植物園の同僚レセペードらによって編まれ、全44巻(45分冊)が完成した。1279枚もの図版が収められたこの『博物誌』は、デイドロラの『百科全書』と並んでフランス啓蒙主義に基く当時の自然科学の最大の成果である。本学所蔵本はフランス王室の紋章が型押しされた刊行当初のままの装丁本で、図版も全て揃っているものである。

※ ケルムスコット・プレス(Kelmscott Press)

19世紀末、産業革命後の英国においての機械化による大量生産と職人軽視の時代のなかで、詩人であり装飾工芸家、社会運動家であったウィリアム・モリス(1834-1896)が手仕事の重要性を強調し、美しい本、読みやすい本、楽しい本を刊行することを目的として、1891年に創立した私家版印刷所(プライベート・プレス)である。用紙は手漉きの紙を使用し、活字は15世紀ベニスの活字書体を元に、モリスたちの考案を加えたゴールデン活字、15世紀ドイツの印刷本の活字書体、特にシェーファー(\*1)らの書体をもとにしたトロイ活字、さらにイギリスのキャクストン(\*2)の活字をもとにしたチャーサー活字を創った。挿絵は友人の画家の協力で、木版画を使用し、製本は簡略なホーランド布背・ボード装とヴェラム装がある。彼が亡くなる1896年までの5年間で53点67巻の美しい本を限定出版した。『チャーサー著作集』は世界の三大美書として知られている。

\*1 Schöffer, Peter (ca. 1425-ca. 1502) ドイツの初期活版印刷の印刷者。グーテンベルクの技術を、受け継ぎ、ヨハン・フスト(Johann Fust)と共にマインツで印刷所を経営した。

\*2 Caxton, William (ca1422-1491) 英国活版印刷の創始者。

49. エリス編『サー・デグレヴァント』 1896年 092.3/650//H  
 Ellis, Frederick Startridge (1830-1901) ed. *Sire Degrevaunt*  
 Hammersmith : Kelmscott Press, 1896  
 チョーサー体 350部限定 ホーランド布背ボード装。
50. モリス『引き裂く川(サンダリング・フラッド)』 1897年 092.3/651//H  
 Morris, William (1834-1896) *The sundering flood*  
 Hammersmith : Kelmscott Press, 1897  
 チョーサー体 310部限定 布背ボード装。ウィリアム・モリスの次女メイからブロウ (Johanna Blow) への献呈本。
51. ロセッティ『バラッド集と叙事詩集』 1893年 092.3/652//H  
 Rossetti, Dante Gabriel (1828-1882) *Ballads and narrative poems*  
 Hammersmith : Kelmscott Press, 1893  
 ゴールデン体 310部限定 リンプヴェラム装。
52. モリス『折ふしの詩』 1891年 092.3/653//H  
 Morris, William (1834-1896) *Poems by the way*  
 Hammersmith : Kelmscott Press, 1891  
 ゴールデン体 313部限定 ヴェラム装。ケルムスコットプレスで出版された最初の赤と黒の二色刷りの本。

※ 新聞・雑誌(定期刊行物)の登場

17世紀になると、ヨーロッパでは、印刷技術をはじめとして、初期郵便制度や流通体制などが整い、ニュースの需要が高まった。また、科学革命の世紀と呼ばれる17世紀には世界初の学術誌『Philosophical transactions』が登場する。

\*『Philosophical transactions』 Royal Society of London 1665- P405/5//DZ(C05J1)

53. イルストリアルテ・ツァイトウング *Illustrierte Zeitung*. Leipzig, 1843-1944年 N/176//H  
 100年にわたってドイツで発行された絵入り週刊新聞。政治、社会、文化など総合的情報を挿絵と文章を織り交ぜた紙面作りで、現在のマスメディア(新聞、テレビ、ラジオ)の役割を担ってきた。同様の絵入り新聞としては、イギリスの『Illustrated London News』(1842- M/684//H) フランスの『L'illustration』(1843- P055/16//D)が有名である。

**54. イリュストラシオン 1843-1944年 パリ**

***L'illustration : journal universel.* Paris, 1843-1944年 P055/16//D**

豊富な図版や写真を使ったフランスの絵入り総合週刊誌。おおよそ毎号 20 頁ほどの構成で読者の手に渡った。1855 年のパリ万博の際には、博覧会に出品されたドラクロワの作品が、木版画で再現されて紙面を飾った。図版は当初木版画だったが、1891 年にはフランスで初めて写真が載る。カラー写真は 1907 年に掲載された。

**55. パンチ 1843-1944年 ロンドン *Punch.* London, 1841-1992年 P055/59//DZ**

風刺週刊誌『パンチ』は、1841 年に創刊されてから 1992 年に終刊するまで、およそ 150 年にわたって刊行された。イギリスの政治や社会を鋭く描いた風刺画は、イギリスのユーモアの典型として広く愛読された。

**56. ジェントルマンズ・マガジン 1731-1856年 ロンドン**

***Gentleman's magazine.* London, 1731-1856年 092.3/196//H**

総合雑誌の始まりといわれているジェントルマンズ・マガジンは、1731 年にロンドンで創刊された。英語辞書編纂者として有名な Samuel Johnson が、その編集に携わったことでも知られている。バックナンバーは 200 巻以上になるが、明治大学図書館ではすべての号を所蔵している。

## D. 日本の印刷史

### 57. 百万塔陀羅尼 4巻(複製) 塔1基 神護景雲4年(770) 091.6/28//H

奈良時代の女帝、称徳天皇(718-770)が天平宝字8年(764)に起きた藤原仲麻呂の乱を平定後、仏の加護に感謝し、また戦没者鎮魂のために、木製三重小塔百万基を造らせた。この小塔に納められたのが『無垢浄光経』(密教の經典)の4種の陀羅尼(根本、相輪、慈心、六度)である。陀羅尼とは、梵語(サンスクリット)文の呪文を意識せず、音写のまま唱えるもので、教えの真理を記憶させる力、行者を守る力、神通力を与える力があるとされる。短いものを真言、長いものを陀羅尼という。きはだ黄蘗染めの麻紙に印刷されており、韓国の仏国寺で発見された陀羅尼と並んで世界最古の印刷物のひとつ。完成した神護景雲4年(770)に畿内の興福寺、東大寺などの十大寺に分置された。現存するのは法隆寺伝来品のみ(約44,000基・明治41年調査)で、他は天災、兵火などで失われてしまった。展示品は、小塔は奈良時代のオリジナルだが、陀羅尼4巻は全て複製。

### 58. 禅林類聚 20巻(欠巻3・4) 貞治6年(1367) (元)釋道泰、釋智境集 京都:臨川寺 補刻本 五山版 合9冊 090/9//H

禅宗の公案の集大成。公案とは、悟りを開かせるために与える問題をいい、昔の高徳の僧の言行を内容とする難問が多い。内容によって102門に類別収録している。中国の元・大徳11年(1307)刊本の覆刻版で、五山版の中でも大部なもののひとつ。巻1目録末の刊記「貞治六年丁未解制日幹縁僧希杲重刊于京臨川寺」にあるように、希杲(生没年未詳・臨濟宗大覚寺派の僧)が多数の僧侶に刊行経費の寄付をつのり、京都臨川寺にて出版したもの。巻1目録末に刊記の他に「孟栄刊施」の補刻がある伝本が存在するが、これは出版後に中国人刻工の陳孟栄が目録4丁分を新しく彫り直したことを示し、当館所蔵本もこれにあたる。陳孟栄は慶安3年(1370)に中国・元より来朝した。

#### ※ 五山版

鎌倉時代に入ると、禅宗寺院は幕府、武家階級の有力な支援を得て、学僧養成の教材として中国の宋・元の禅典や詩文類を覆刻出版し、またわが国の禅僧が著わした語録などを宋・元刊本の様式で出版した。鎌倉時代末期から室町末期にいたる間に五山を中心に行われ、刊行された書籍を五山版と総称する。五山とは鎌倉五山(建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺)、京都五山(南禅寺・天龍寺・建仁寺・東福寺・万寿寺)を指すが、これ以外の禅宗寺院が刊行したものも五山版と呼んでおり、410種類を数える。臨川寺版は暦応4年(1341)に刊行が開始され、祖師の語録や禅宗經典の覆刻が主だった。天竜寺版と並んで五山版の代表的存在。

※ 覆刻版

原本の整版本や活字本を薄い紙に透写して版下(はんした)とし、新たに整版本を作成したもの。透写するときには原本の本文や挿絵を意図的に修正、削除、追加したり、また誤認、誤写、脱漏を引き起こしていることがある。五山版に用いられた方法で、中国より伝来した稀少な宋版や元版は、覆刻によって増刷りされ、需要を満たした。

59. **ぎやどべかどる 上巻 慶長 4 年(1599) 日本イエズス会【複製版】 198.2/31//H**

きりしたん版国字本の典型。金属活字本。当時キリスト教文学の第一人者として名著の誉れ高かったドミニコ派修道士ルイス・デ・グラナダ(Luis de Granada, 1505-88)の信心・修得の書を抄訳したものであるが、訳文も秀麗で、きりしたん版の白眉と称される。神の尊厳を述べると共に報恩善行の道を説いている。原本は重要文化財に指定されている。白茶色地に 57 の桐の花模様を雲母で刷り出した表紙、袋綴和装訂で全 121 丁。平仮名に漢字を交え、ラテン語聖書引用句などではローマ字を用いている。

標題紙裏の中央部に大型文字で『きやとへかどる』と日本語書名、その下に小さく 2 行に「罪人を善に／導くの儀也」と割書きし、右に「御出世以来千五百九十九年」、左に「慶長四年正月下旬鏤梓也」と刊年を記す。

※ きりしたん版

天正 18 年(1590)、イエズス会の東方巡察使 A. フリニャーニが布教のため、教義書や教科書をはじめ国書類の印刷を目的として、西欧の印刷機を長崎に搬入し、加津佐、天草、長崎などにおいて印刷した書物。主として金属活字版だが、木活字版もある。ローマ字本(横組み)と国字本(縦組み)とがある。天正 19 年(1591)にローマ字本『サントスの御作業のうち抜書』2 巻 1 冊が初めて刊行されたが、慶長 19 年(1614)キリスト教の大迫放令が発令され、きりしたん版の刊行事業は完全に途絶えた。また刊行されたきりしたん版も多くは失われ、わずかに 32 点の現存が確認されている。きりしたん版の平仮名まじりの口語俗語を中心とする表現方法は、大衆への普及を考慮したものであり、伝統的な仏典の漢語中心の出版に比べると革新的な発想であった。

60. **七書 25 巻 慶長 11 年(1606) 伏見版 合 2 冊 091.1/16//H**

伏見版としては最後に出版された書物。伏見版『七書』は、初版印刷後、ほとんど同時に同種活字を用いて再度印刷刊行された異版のあることが、現存する伝本の比較で明らかになっている。前者は東洋文庫蔵本などがあり、後者は安田文庫蔵本が知られている。当館所蔵本は後者の異版に当たる。『七書』とは 11 世紀初頭、中国の北宋年間に代表的兵法書 7 種を選んで「七書」と称し、軍事学の基本的経典と定められたのに始まる。本書は合冊されており、第 1 冊に『孫子, 3 巻』『呉子, 2 巻』『司馬法, 3 巻』『尉繚子, 5 巻』、第 2 冊に『黄石公三略, 3 巻』『六韜, 6 巻』『唐太宗李衛公問对, 3 巻』を収める。『孫子』の上巻第 3~5 の 3 丁を欠く。家康は慶長 12 年春、駿府に退隠したので、『七書』を以って伏見版の刊行は終わっている。

※ 伏見版(ふしみばん)

慶長 4 年(1599)から 11 年(1606)までの 8 年間、徳川家康が京都伏見の円光寺において、元足利学校第 9 代<sup>しやうしゆ</sup>座主(校長)の閑室元信(1548-1612)に、約 10 数万個の木活字を与えて、兵書を中心に刊行させた書物をいう。伏見版に用いられた木活字のうち約 1 万個は、現在京都市左京区に移った円光寺や京都府立総合資料館などに重要文化財として保存されている。

61. <sup>ほよけの</sup>佛乃はら 慶長後期 嵯峨本 古活字版 091.1/19//H

「観世流謡本」は、嵯峨本の中でも、本阿弥光悦自身が版下を書いたものと認められるもっとも著名なものひとつ。謡本とは、謡(能の脚本たる謡曲文にフシを付けて歌う音曲)のテキストとして書写あるいは印刷された本。謡が公家、武家、豪商などの間に流行した天文～天正(1532-1575)頃から続々と書写されたが、慶長(1596-1614)前後になると、謡人口の増加と出版技術の進歩とあいまって、写本から版本に主流が移った。謡の中心地だった京都での勢力を反映し、観世流の本が圧倒的に多い。印刷は連続活字などを用いた古活字版。嵯峨本「観世流謡本」は百冊百番で一揃い。厚手の雁皮紙を数枚貼り合せ、胡粉を掃いた料紙に雲母摺り(雲母の粉で摺った模様がきらきらと輝いて見える)を施している。本資料は、表紙、料紙に雲母模様のある列帖装の特装本。

『佛乃はら』は、世阿弥作と伝えられている。「平家物語辞氏王」を本説とし、旅の僧が、加賀国仏の原にて、平清盛の寵愛を受けた白拍子の仏御前を回向する。

62. <sup>こうえつうたいほん</sup>光悦謡本 『<sup>さねもり</sup>実盛』<sup>ゆや</sup>熊野』<sup>しやうじやう</sup>猩々』 「観世流謡本」百番 特装本の複製 099.3/30//H

『実盛』世阿弥作の修羅物。斎藤別当実盛の霊が遊行上人の説法を聴聞したという伝説と、篠原の戦いの物語を脚色。遊行上人が北陸を訪ねた際、加賀の篠原で実盛公の亡霊に会い供養したという。全料紙が薄緑色。

『熊野』世阿弥作品の最高峰と言われる作品。春爛漫の中で演出される男女の駆け引きが主題で、清水寺への道行き場面は特に有名。料紙の雲母模様が各伝本とも多様。

『猩々』猩々は唐土に住むといわれる想像上の霊獣。中国の高風という人に、ある夜、海から現れた猩々が月下に舞いながら汲めども汲めども尽きず飲めども飲めども変わらぬ酒の泉を授け、これにより高風が富貴を極めたというめでたい謡曲。薄紅色の料紙を使用。

※ 嵯峨本

慶長年間(1596-1614)中期から元和年間(1615-24)初期に、京都の嵯峨で本阿弥光悦(1558-1637)とその門流および角倉素庵(1571-1632)らが共同で製作出版した書物で、整版本と古活字版がある。豪商の素庵が私費を投じて、嵯峨で出版したことから『嵯峨本』あるいは『光悦本』と呼び、草花や鳥などの模様を雲母で摺った料紙をはじめ、書体、挿絵、装訂などに美術的、工芸的意匠が凝らされ、わが国書物史上の最高の芸術品とまでいわれている。『伊勢物語』ほか 13 部 38 版種が刊行された。刊記がなく、刊年の不明なものがほとんどである。

**63. 熊野の本地(異本) 奈良絵巻 室町末期頃写 091.4/64//H**

本地物(神仏が前生に人間界に生をうけ、人間と同じ苦難を経て衆生を救済する神仏となる物語)の中心的な存在となった御伽草子。天竺摩訶陀国(インドのマガダ国)の王の寵愛を受け、王子を身籠った五衰殿の女御は、他の后たちの嫉妬のために山中で王子を産んだ後、処刑されてしまう。残された王子は山の虎狼に守られ成長し、やがて上人に導かれて父王との再会を果たす。父子は上人の力で蘇生した母と共に日本に渡り、熊野の権現として顕れたという物語。本文は平仮名漢字交じりで、諸本と比較して異同が多く、別系統の異本と考えられる。23 図ある挿絵は、朱を中心に青や緑など抑えた色調で彩色され、古雅な趣を感じさせる(一部に剥落有)。全体に古体を残した本絵巻は、本文研究のみならず、美術、書誌学の分野でも貴重な史料となりうるものである。

**64. 曾我物語 12 巻 正保 3 年(1646) 安田十兵衛 091.1/13//H**

鎌倉幕府が成立して間もない建久 4 年(1193)5 月に起こった、曾我十郎祐成、五郎時到兄弟の仇討ち事件をもとにした軍記物語で、当初は十郎、五郎の御霊を慰撫するために回国の巫女による語り物として発生したと考えられており、作者は不詳。現存諸本は大別して、真名本、大石寺本、仮名本の 3 系統にわかれ、明大所蔵本は「正保三年正月吉日 誓願寺前 安田十兵衛開板」(1646)の刊記を持つ仮名本系統の流布本である。これは全 12 巻揃いの完本で、朱(丹)・緑・黄色などの絵具で彩色された美しい挿絵がちりばめられ、挿絵は全巻で 190 図にも及ぶ。江戸時代初期の丹緑本(たんろくぼん)である。この本は南葵文庫(旧紀州藩主徳川頼倫が維新後、紀伊徳川家伝来の蔵書を主体に設立した文庫)主任であった著名な蔵書家戸川残花旧蔵の稀観本である。

**65. 竹生島の本地 古活字版 丹緑本 複製版 099.3/30//H**

竹生島の弁財天の由来を叙述する本地物(神仏の前世譚であり、神仏の靈験と信仰の功德を説くもの)の御伽草子。原本は、紙数 16 丁のうち、本文 12 丁半、絵 4 面で、挿絵には丹緑黄などの手彩色が施してある。内題「ちくふしまのほんし」。

大和の国壺坂の姫が、亡くなった父の十三回忌の追善を営むために、自らの身を売り、奥州へと旅立ち、大蛇への人身御供の身代わりとなる。姫が生け贄として差し出されると、池から大蛇が現れるが、姫が法華経を読むと、その功德で成仏する。大蛇は感謝して、姫を生国まで送り、お布施として千両授ける。姫は母と再会し、後々は志賀の竹生島弁才天として祀られたという。

**66. 八代集抄 北村季吟著 108 巻 50 冊 版木**

近江国野洲(現在の滋賀県野洲市)生れの江戸時代の俳人・歌人であり歌学者北村季吟(1625-1705)の注釈書のひとつ。平安時代の古今集から後撰・拾遺・後拾遺・金葉・詞花・千載集を経て鎌倉時代の新古今集に至る 8 つの勅撰和歌集を八代集といい、これら八代集に

ついて先行の歌学書・歌論書を踏まえ、私見や師説を引きながら歌集の成立過程、歌学上の評価、各歌の解釈について述べている。八代集すべてを一人で注釈したのは、後にも先にも『八代集抄』だけである。

※ 板木

印刷するために文字や絵画などを彫り付けた板で、よく乾燥させた桜材が用いられる。一枚の板の両面を用いることが多い。整版本(一枚の板に文字を彫り、これに墨を塗って印刷したもの)の印刷の際に、板に版下を貼り付けて文字を左右逆に彫刻した印刷原版をいう。彫り上げた板木は反りを防ぐために、板木の両端に「端食」を付けて保存する。彫り上げた後の手直しは、訂正した新たな木を部分的に入れる「埋木」「入木」と呼ばれる作業を行なう。板木の寿命は保存さえよければ長い、多くの場合は削って再利用されたり、処分されたりして残らないことが多い。

【参考展示】北村季吟著 八代集抄 古今集 巻 3 版本 京都:植村藤三郎[ほか] 天保 2 年 (1682)

【参考展示】北村季吟著 古今集 上 活字本 新典社 1979 年

67. 井原西鶴(1642-1693)『好色一代男』 浮世草子 複製版 8 冊 天和 2 年(1682)

大坂荒砥屋孫兵衛可心版 井原西鶴著, 落月庵西吟跋 099.3/30//H

主人公世之介が、7 歳にして恋を知り、60 歳で女護島に渡るまでの彼の 54 年間の恋愛遍歴を小説にしたもの。版元の荒砥屋孫兵衛可心は、西鶴と俳諧を通じての知人で、本書は談林俳諧の俳風を身につけた読者に提供された楽屋落文学であったのだろうと思われるが、当時の人情や風俗を興味深く描いたこの小説は、読者の心を魅了し、浮世草子と呼ばれる小説類の流行を生み出すきっかけとなった。章立ては『源氏物語』54 帖の枠組みに倣ったといわれ、全 8 巻 54 章となっている。挿絵は西鶴の自筆ともいわれ、大変貴重な資料である。

68. 井原西鶴(1642-1693)『繪入西鶴織留』 6 冊 正徳 2 年(1712) 大坂 092.1/48//H

『西鶴織留』は西鶴が死去した翌年の元禄 7 年(1694)に刊行された。『日本永代蔵』『世間胸算用』などととも町人物のジャンルに属する。元禄 7 年(1694)刊記の本は 2 種類あり、本書は「元禄版通行本」(流布本)の系統に属す。西鶴の門人北条団水(-1711)が序を加え、さらに副題に巻 1-2 は「本朝町人鏡」、巻 3 以下を「世の人心」としている。本書は「正徳二壬辰年五月吉日 大坂書林 岩国屋徳兵衛 大塚屋権兵衛 油屋与兵衛 開板」とあるように正徳2年(1712)の版本である。

69. 春好齋画『三勝櫛赤根色指』 2編 10冊 江戸後期 大坂:河内屋太助 912.5/47//H  
 文化8年(1811)刊。文久3年(1863)10月大坂中の座で初演。江戸末期の浮世絵師春好齋北洲(生没年不詳)画の絵入根本。絵入根本とは、歌舞伎の台帳(脚本)を印刷刊行したもので、多くは絵入りであることからこの名称が付けられている。絵入根本の最盛期は文化から天保期であり、その多くは大坂の書肆河内屋太助店から出版されている。春好齋画の絵入根本として他に文化7年(1810)刊『文月恨切子』などが知られる。
70. 柳亭種彦(1873-1842)『修紫田舎源氏』 38編 1978年 日本古典文学刊行会  
 文政12年-天保13年(1829-1842)刊の複製版 099.3/30//H  
 『源氏物語』を室町時代の世界にうつして翻案・合巻化した異色の作品。当時、中国文学の翻案が大いに流行していた背景があるが、種彦はこれを日本古典文学に見出した。足利将軍の一子、光源氏ならぬ光氏が、お家乗っ取りを企む謀反勢力と闘うため、身をやつして女性遍歴を重ねる。まさに恋あり陰謀あり、室町は花の御所を舞台に人気浮世絵師國貞の妖艶な挿絵が映し出す歌舞伎仕立7の『源氏物語』で、熱狂的な人気を得た当時の大ベストセラー。将軍家斉の大奥生活に触れたがために絶版となったと伝えられるが、戯作文芸一般への弾圧と華美装幀の禁止が主と見られる。挿絵は歌川国貞による。
71. 福澤諭吉(1834-1901)『学問ノススメ』 明治5-9年(1872-1876) 002/8/B/H  
 明治初期の大ベストセラー『学問ノススメ』全17篇が刊行されたのは、木版印刷から活版印刷にかわり始めた時期にあたり、各編で活版・木版が混在している。これは版木の保存される木版がこの時代は増刷にはまだ便利であったためで、はからずも技術の過渡期であることを表している。毛利家旧蔵の本学所蔵本は、1-3は木版、4-9と11は活版、10は木版で印刷されている。本学所蔵の初編は、明治6年(1873)刊行。

**第 21 回 明治大学中央図書館企画展示  
図書文化史(2007)**

編 集： 中央図書館ギャラリー企画運営 WG

発 行： 明治大学図書館

発行日： 2007 年 7 月 5 日